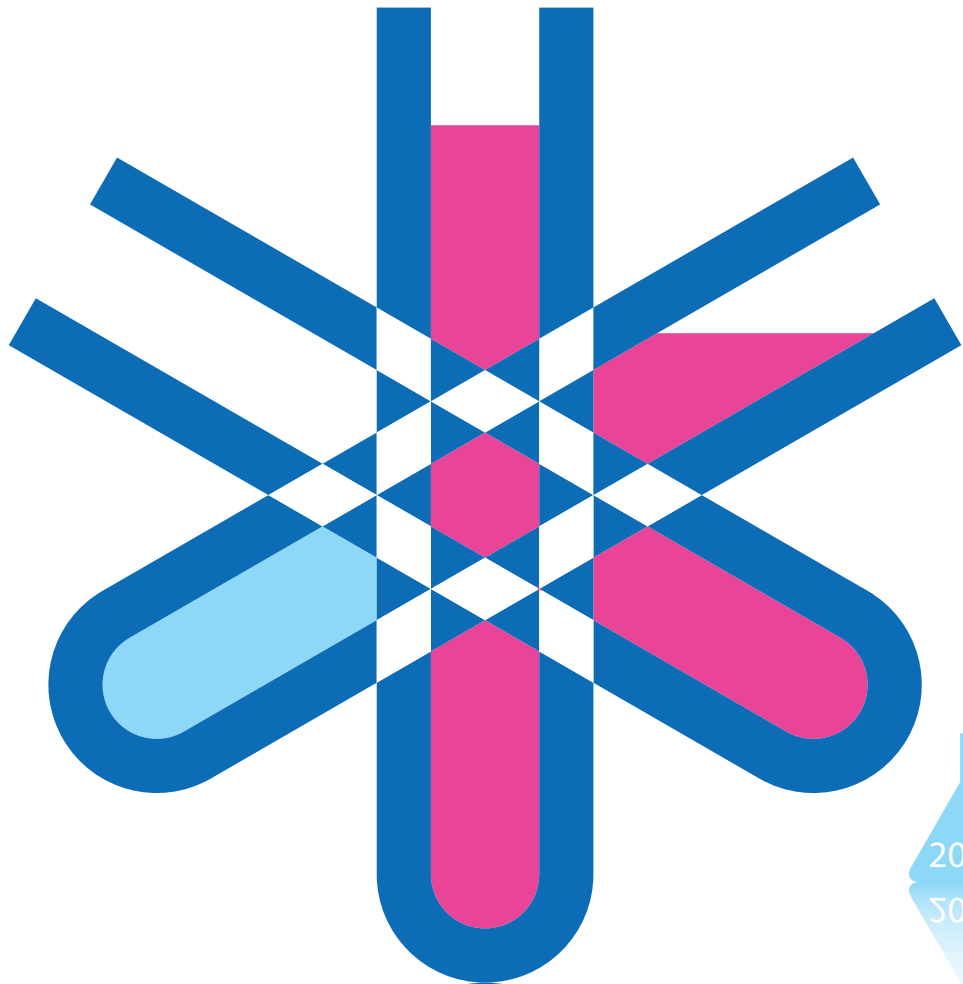


横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成31年1月号 目次

【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果(平成30年5月～10月) 1

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 12月 4

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 8

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 (平成30年5月～10月)

当所では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておく必要があります。

平成30年は電池式ライトトラップ(CDC型:ドライアイス併用、写真1)を用いた蚊成虫捕獲調査を市内25か所(各10回、リスク地点は各12回:6か所)で行いました(図1、表2)。ライトトラップの設置回収は、各区福祉保健センター、(公社)神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。また、山下公園(中区)では、捕虫網を用い、ヤブカ属の捕獲を目的とした8分間人^{ひと}ひとり法も公園内3定点で全12回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。本稿では、これらの調査結果について報告します。

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト



図1 蚊成虫捕獲調査地点

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点	
鶴見	大黒中央公園(A) 馬場花木園(B)	南	蒔田の森公園(J)	港北	新横浜公園 (日産スタジアム)(R) ◆	
神奈川	三ツ沢公園(C)	港南	久良岐公園(K)	緑	北八朔公園(S)	
西	掃部山公園(D) 臨港パーク(E) ◆	日野公園墓地(L) ◆	保土ケ谷	陣ヶ下溪谷公園(M)	青葉	桜台公園(T)
中	山下公園(F) ◆ 横浜公園(G) ◆ 港の見える丘公園(H) ◆ シンボルタワー(I)	旭	こども自然公園(N)	都筑	都筑中央公園(U)	
		磯子	坪呑公園(O)	戸塚	舞岡公園(V)	
		金沢	海の公園(P)	栄	本郷ふじやま公園(W)	
		港北	新横浜駅前公園(Q)	泉	泉中央公園(X)	
				瀬谷	二ツ橋南公園(Y)	

◆ リスク地点(全12回調査):観光客の訪問、イベント開催、蚊の発生源・潜み場所が多い等が想定される場所

〈ライトトラップ法による蚊の捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊の種類と捕獲数を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、5属10種10,284個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ7,814個体(76.0%)でした。次いで、アカイエカ群が1,638個体(15.9%)、ヤマトヤブカが409個体(4.0%)、キンバラナガハシカが157個体(1.5%)、コガタアカイエカが45個体(0.4%)捕獲されました。

なお、雌成虫について実施した蚊媒介感染症ウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。(詳細は、衛生研究所ホームページに掲載※)



写真1 CDC型ライトトラップ

表3 蚊の種類と捕獲数(ライトトラップ法:6か所×12回 19か所×10回)

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*	1,595	43	1,638	(15.9)
	コガタアカイエカ	45	0	45	(0.4)
	カラツイエカ	20	0	20	
	トラフカクイカ	2	0	2	
ヤブカ属	クシヒゲカ亜属	3	3	6	
	ヒトスジシマカ	6,968	846	7,814	(76.0)
	ヤマトヤブカ	389	20	409	(4.0)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	15	0	15	
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	132	25	157	(1.5)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	20	3	23	
破損(同定不能)		154	1	155	(1.5)
合 計		9,343	941	10,284	

*: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

※横浜市衛生研究所:

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/pathogen/infc-kabaikai.html>

また、調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、掃部山公園(西区)で1,333個体でした。次いで、臨港パーク(西区)が1,019個体、新横浜駅前公園(港北区)が953個体でした。この3地点は、ヒトスジシマカが非常に多く捕獲されました(掃部山1,303個体、新横浜駅前853個体、臨港750個体)。またシンボルタワー(中区)は701個体で、そのうちアカイエカ群が671個体と多く捕獲されました。

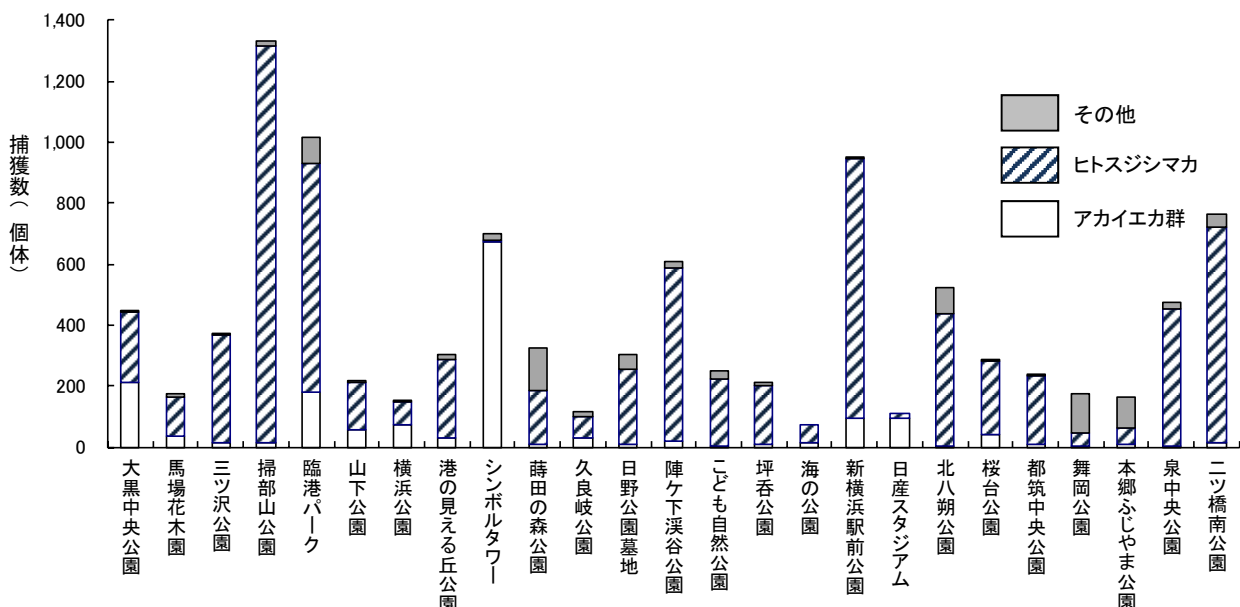


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり
〈人囮法によるヒトスジシマカ捕獲調査: 山下公園〉

山下公園内の3定点(図3)において、人囮法(写真2)による蚊成虫調査を各12回行いました。調査の結果、ヒトスジシマカの雌成虫は392個体、雄成虫は376個体、合計768個体捕獲されました。定点①では100個体(雌66個体、雄34個体)、定点②では74個体(雌38個体、雄36個体)、定点③では、594個体(雌288個体、雄306個体)捕獲されました。

なお、雌成虫について実施したフラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルスなど)、チクングニアウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。



①発電設備建物脇の植え込み ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地

ひとひとり
図3 山下公園内調査定点(人囮法)

ひとひとり
〈人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫季節消長: 山下公園〉

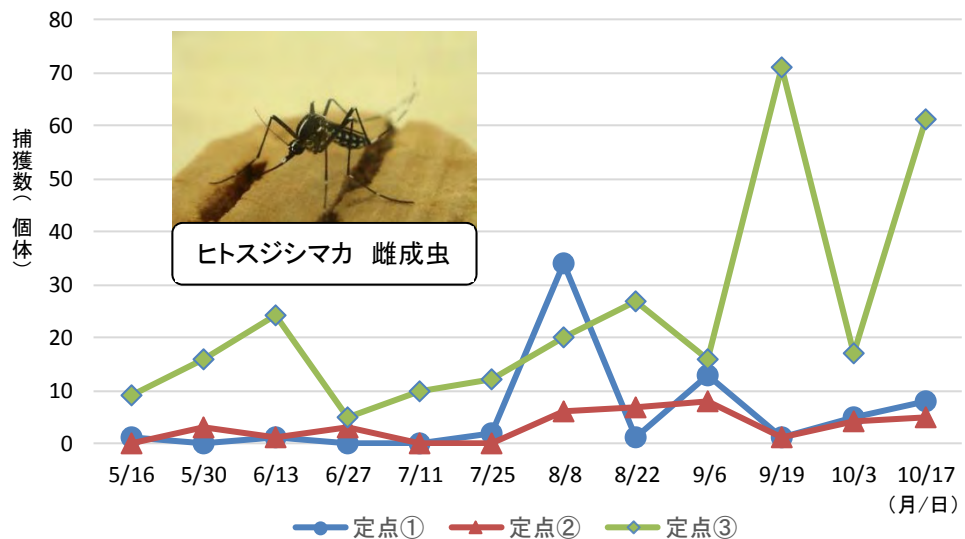
ひとひとり
人囮法により捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の季節消長を図4に示しました。

ヒトスジシマカは調査期間を通じて捕獲されました。各調査回の雌成虫捕獲数は、定点①②は、7月下旬まで少ない傾向でした。定点①は8/8に34個体と増加しました。定点②は、8月上旬から9月上旬にかけて、6~8個体捕獲されましたが、急激な捕獲数の増加はみられませんでした。

定点③は、初夏の5/16に9個体、6/13に24個体と他の定点より多く捕獲されました。また8月上旬から捕獲数が増加し、8/22に27個体、9/19には71個体と非常に多く捕獲されました。さらに初秋の10/17にも61個体と非常に多く捕獲されました。



ひとひとり
写真2 人囮法



ひとひとり
図4 山下公園のヒトスジシマカ雌成虫季節消長(人囮法)

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行注意報が発令されています。
- 伝染性紅斑の流行警報が発令されています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
A型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
デング熱	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	3件	梅毒	10件
アメーバ赤痢	4件	百日咳	39件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	風しん	31件
急性脳炎	3件	麻しん	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	—	—

- 1 細菌性赤痢:ハワイでの感染と推定される報告(sonnei(D群))が1件ありました。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157の報告が2件(うち1件が無症状病原体保有者)、O128(無症状病原体保有者)の報告が1件、O不明(無症状病原体保有者)の報告が1件ありました。
- 3 E型肝炎:経口感染と推定される報告が2件ありました。
- 4 A型肝炎:経口感染または異性間の性的接触と推定される報告が1件、経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 デング熱:マレーシアでの蚊からの感染と推定される報告が1件ありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が3件あり、感染経路等不明です。
- 7 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が4件(異性間の性的接触が2件、経口感染が1件、感染経路等不明が1件)ありました。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:7件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性脳炎:小児の報告が2件(病原体不明)、60歳代の報告が1件(風しんウイルス)ありました。
- 10 クロイツフェルト・ヤコブ病:古典型CJDの報告が1件ありました。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:50歳代と80歳代の報告が1件ずつありました。
- 12 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が2件(国内での同性間の性的接触)、無症状病原体保有者の報告が2件(いずれも同性間の性的接触で、中国および国内での感染が1件ずつ)ありました。いずれも男性でした。
- 13 侵襲性インフルエンザ菌感染症:70歳代の報告が2件ありました。
- 14 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児の報告が1件(ワクチン接種3回)、10歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)、40歳代および50歳代の報告が1件ずつ(ワクチン接種不明)、70歳代の報告が5件(ワクチン接種あり1件、なし3件、不明1件)、80歳代の報告が4件(ワクチン接種あり3件、なし1件)ありました。
- 15 水痘(入院例に限る):20歳代の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 16 梅毒:10件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、晩期顕症梅毒が1件)がありました。感染経路は、異性間の性的接触が4件、同性間の性的接触が1件、詳細不明の性的接触が1件、母子感染の推定が1件、感染経路不明が3件でした。男性6件、女性4件でした。
- 17 百日咳:10歳未満では乳児が4件(ワクチン接種あり2件、なし2件)、小児が20件(ワクチン接種あり16件、不明4件)の報告があり、10歳代で11件(ワクチン接種あり8件、不明3件)、30歳代で3件(ワクチン接種不明)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 18 風しん:検査診断例30件、臨床診断例1件が報告されています。幼児が1件(ワクチン接種なし)、20歳代が11件(ワクチン接種あり3件、なし2件、不明6件)、30歳代が6件(いずれもワクチン接種不明)、40歳

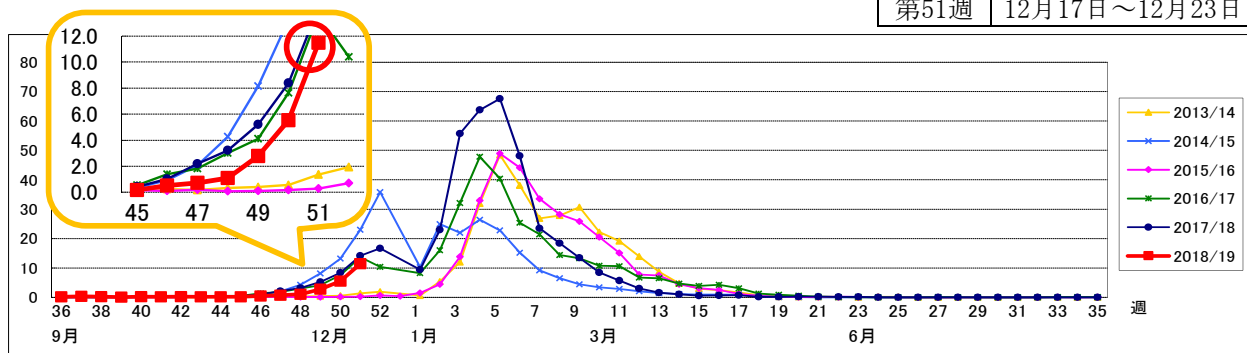
代が6件(ワクチン接種なし2件、不明4件)、50歳代が6件(いずれもワクチン接種不明)、60歳代1件(ワクチン接種不明)でした。男性25件、女性6件でした。

19 麻疹:タイでの感染が推定される報告が1件、その接触者の報告が1件ありました。

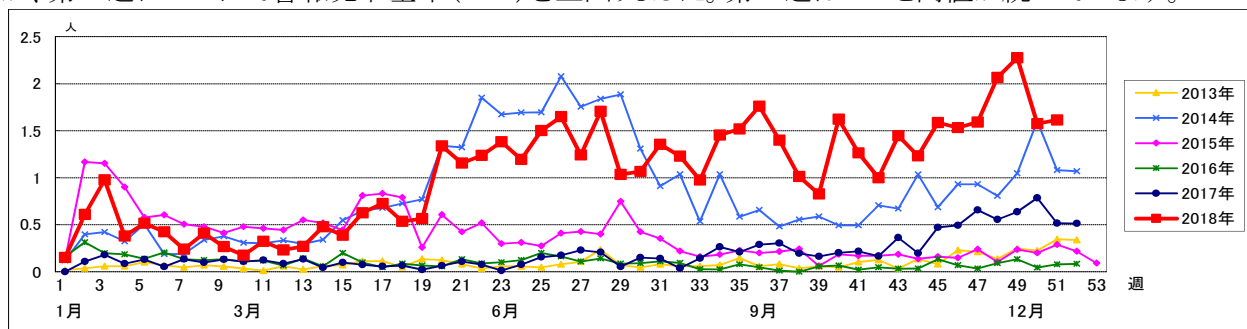
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ【注意報発令中】:第48週にて定点あたり1.08となり、流行開始の日目安(定点あたり1.00)を上回りました。さらに第51週は11.47と増加し、注意報発令基準(10.00)を上回りました。

報告週対応表	
第48週	11月26日～12月2日
第49週	12月3日～12月9日
第50週	12月10日～12月16日
第51週	12月17日～12月23日



2 伝染性紅斑【警報発令中】:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移していましたが、第48週にて2.07にて警報発令基準(2.00)を上回りました。第51週は1.62と高値が続いています。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:23件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:6件	淋菌感染症	男性:12件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	1.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.75	0.25	1.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点17件、基幹定点3件、眼科定点4件で、定点外医療機関からは4件でした。

1月9日現在、ウイルス分離28株と各種ウイルス遺伝子8件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(12月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱 (ア デ ノ 感 染 症 含 む)	手 足 口 病	性 帯 状 疱 疹 ・ ウ イ ル ス 膜 炎	感 染 症 h M P V ウ イ ル ス
インフルエンザ AH1pdm型		20				
インフルエンザ AH3型	1	5				
パラインフルエンザ 2型	1					
アデノ 3型			1			
水痘・带状疱疹ウイルス					1	
コクサッキー A16型				1		
コクサッキー B4型	1					
ヒトコロナ*	2					
ヒューマンメタニューモ						1
ライノ	1	1				
合計	2 4	25 1	1 0	0 1	0 1	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、下痢原性大腸菌7件、サルモネラ属菌1件、肺炎球菌2件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、下痢原性大腸菌2件、非結核性抗酸菌1件ありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、腸管出血性大腸菌4件、レジオネラ属菌のPFGE検査等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所から喀痰のレジオネラ属菌の培養検査依頼が2件ありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter aerogenes</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)		
	基幹定点	下痢原性大腸菌	7	ETEC:O6:H16 ST1b(3)、O15:H18 ST1b(1)、 O159:H34 ST1a(1) 病原関連遺伝子不検出:O153(2)	
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Saintpaul	
		肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 3型(1)、7型(1)	
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Pantoea</i> spp. (1)	
		下痢原性大腸菌	2	病原関連遺伝子不検出:O1(1)、O18(1)	
		非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i>	
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter aerogenes</i> (4)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
			腸管出血性大腸菌	4	O157:H7 VT1VT2(2)、O157:H- VT1VT2(1)、 型別不能VT-(1)
			肺炎球菌	3	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 20型(1)、3型(1)、7型(1)
		赤痢菌	1	<i>Morganella morganii</i>	
		レジオネラ属菌	3	<i>Legionella pneumophila</i> 1群 PFGE	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌TB3264	
		インフルエンザ菌	3	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等	
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	2	不検出(培養法)(1)、 <i>Legionella pneumophila</i> 1群(培養法)(1)	
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	A群T25(1)、A群T4(1)、A群T型別不能(2)		

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成30年12月の総アクセス数は、150,512件でした。前月に比べ約12%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*169.5%、保健情報13.7%、検査情報月報1.9%、食品衛生1.7%、生活環境衛生1.5%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

12月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「大麻(マリファナ)について」、2位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、3位は、電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」でした。また、5位から8位にかけて、インフルエンザの流行情報が入っており、関心の高さが伺えます。

表1 平成30年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	15,355
2	横浜市感染症情報センタートップページ	7,776
3	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」	7,381
4	衛生研究所トップページ	5,366
5	横浜市インフルエンザ流行情報2号(2018/2019)	4,739
6	横浜市インフルエンザ流行情報3号(2018/2019)	3,990
7	横浜市インフルエンザ流行情報1号(2018/2019)	3,591
8	インフルエンザ流行情報(2018/2019)	3,275
9	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,805
10	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	2,594

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年12月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 平成30年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
家で発見した虫について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成30年12月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成30年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 6日	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載
12月 6日	伝染性紅斑臨時情報	掲載
12月 7日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月13日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載
12月13日	横浜市風しん流行情報10号	掲載
12月14日	英国のこどもの定期予防接種について	更新
12月14日	英国のこどもの定期予防接種(2017年秋)	掲載
12月18日	横浜市人口動態統計資料(平成29年)	掲載
12月20日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
12月21日	2018(平成30)年度のインフルエンザワクチンについて	掲載
12月27日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
12月27日	横浜市風しん流行情報11号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】